

保健所の乳幼児健診における母の訴えについて

小宮久子

要約：医療機関の多い都市の保健所における乳幼児健診の果たしている役割を知るために母子管理カードによって、健診時の母の訴えについて調査した。何らかの訴えのあった児の割合は乳児63.4%、1才半児75.4%、3才児63.2%であった。訴えの内容は乳児では疾病・異常など身体に関することが最も多く、次いで栄養・食事などであり、1才半児では栄養・食事に関することが最も多く、3才児では行動・情緒の問題が最も多かった。訴えに相応した所見が認められたり、心配・不安に対して相談が必要であったりして、個人的な指導・指示が行われた訴えの割合は乳児36.2%、1才半児44.5%、3才児45.5%であった。

見出し語：乳幼児健診、母の訴え

研究方法：

昭和57年4月1日から昭和58年3月31日まで
に出生し、東京都大田区蒲田保健所における
乳幼児健診を1回以上受診して、調査時期である
昭和61年12月まで管内に在住している児につ
いて、各個人の母子管理カードを調査した。

蒲田保健所においては乳幼児期に3回の集団
健康診査が行なわれている。調査対象児数は
乳児（3～4か月児）1408名、1才半児（1才
6か月児）1488名、3才児（3才0～1か月児
）1516名である。

結果：

1、対象児の家庭的背景（3才児健診時）

- (1)同胞数；一人子31.3%、同胞1人52.8%、
同胞2人以上14.9%、不明1.0%

- (2)出生順位；第1子50.8%、第2子38.7%
第3子以上9.0%、不明1.5%

- (3)本人を含めた家族の人数；2人（母と児）
0.4%、3人26.7%、4人47.1%、5人
13.5%、6人以上10.2%、不明2.2%

- (4)祖母が同居している；15.6%

- (5)対象児を出産した時の母の年齢；19才以下
0.9%、20～24才12.5%、25～29才44.2
%、30～34才32.5%、35才以上8.2%
不明1.7%

- (6)出生時体重2500g以下の児；78名（4.6%

2、母の訴えのついて

- (1)何らかの訴えのあった児の割合（表1）

予診時に保健婦に対しての訴え、診察時に

医師に対しての訴え、健診通知の葉書についているアンケートへの記入など、母（またはその他の同伴者）から何らかの訴えのあった児の割合は、乳児63.4%、1才半児75.4%、3才児63.2%であった。

(2)母の訴えの内容(表2)

訴えの内容を分類し、各健診について訴えの多い順に3位までその主な内容をみると以下のようなものである。

乳児：①疾病・異常 491件=湿疹・アトピー性皮膚炎(246)、斜頸の疑い(67)、あざ(36)股の開きが悪い(28)。②身体の一般的相談 272件=眼脂・さかさまつげ(71)、便秘(72)喘鳴(32)、吐乳・溢乳(24)。③栄養・食事 164件=乳の飲みが悪い(108)、離乳食について(36)。

1才半児：①栄養・食事 537件=まだ哺乳瓶や母乳がやめられない(277)、偏食(103)小食(93)、遊びながら食べ(39)。②疾病・異常 344件=湿疹・アトピー性皮膚炎(96)、熱性けいれん(65)、斜視・視力(43)、x脚o脚(28)。③養護251件=排泄のしつけ(215)睡眠(25)。

3才児：①行動情緒の問題 365件=指しゃぶりその他の癖(148)、大人に頼りすぎ(68)、人みしり強い(59)、言うことをきかない(47)友達と遊べない(41)。②疾病・異常 301件=熱性けいれん(71)、湿疹・アトピー性皮膚炎(55)、x脚o脚その他(38)、斜視・視力(38)喘息(17)③養護 211件=排泄のしつけ(135)睡眠(40)、衣服の着脱(26)。

3、母の訴えに対する健診の指示(表3)

訴えはあったが結果は特になしとなったものは、乳児63.8%、1才半児55.5%、3才児54.5%であった。一方、指示ありの内訳をみると、訴えに相応した所見が認められて、経過観察相談・療育相談・精密健診票発行・要治療の指示があったものは、乳児27.9%、1才半児12.2%、3才児8.2%であった。また異常とは言えないが母の訴えに対して保健婦・栄養士・心理の個人的な指導を受けたものが、乳児47.9%、1才半児72.6%、3才児78.5%であった。

考察

近年、乳幼児健診ではじめて重大な疾病が発見されることは、少なくとも都市ではなくなっており、全人的な保健指導、生活指導が望まれている⁽¹⁾。そして健診の効果は個々の受診者が健診をどのように評価したかが重要な情報になっている⁽²⁾。

今回、母親の健診に対する期待・要望としての児に関する訴えをみたが、いずれの健診においても訴えありが60%を超えており、特に1才半児の母からが多い。訴えの内容は児の成長発達に伴って変わっていくが、児が正常であっても、母が不安・心配を持っている場合が多かった。それに対して個人的な指導が行われているが、今後、その後の経過をまとめていきたい。

文献

(1)中山健太郎：健康診査と保健指導の進展、母子保健情報、11、2-3、1985 (2)高岡幹夫：公的な乳幼児健診に対する保護者の評価に関する研究、小児保健研究、45(6) 572-577、1986

表1 母から何らかの訴えのあった児の割合 表3 母の訴えに対する健診の指示

	乳児	1才半児	3才児
訴えあり	892名 63.4%	1122名 75.4%	958名 63.2%
訴えなし	516名 36.6%	366名 24.6%	558名 36.8%
計	1408名 100.0%	1488名 100.0%	1516名 100.0%

	乳児	1才半児	3才児
特になし	704件 63.8%	880件 55.5%	747件 54.5%
指示あり	399件 36.2%	705件 44.5%	621件 45.5%
指示内訳 保健指導のみ	114件 28.6%	162件 23.0%	211件 33.9%
栄養指導	77 19.3	142 20.1	60 9.6
要経過観察相談	66 16.5	38 5.4	18 2.9
要療育相談	30 7.5	23 3.3	13 2.1
精密健診 票発行	7 1.4	17 2.4	14 2.6
要治療	10 2.5	8 1.1	4 0.6
心理相談	0	208 29.5	218 35.0
他機関管理 中	95 23.8	107 15.2	83 13.3

表2 母の訴えの内容 (件数)

	乳児	1才半児	3才児
身体発達の遅れ	33件 (3.0%)	28件 (1.8%)	22件 (1.6%)
運動発達の遅れ	92 (8.3)	22 (1.4)	32 (2.3)
精神発達の遅れ	1	10 (0.6)	9 (0.7)
言語発達の遅れ	0	160 (10.1)	107 (7.8)
身体の一般的相談	272 (24.6)	94 (5.9)	122 (8.9)
疾病・異常	491 (44.5)	344 (21.7)	301 (22.0)
栄養・食事	164 (14.9)	537 (33.9)	199 (14.6)
養護	34 (3.1)	251 (15.8)	211 (15.4)
行動情緒の問題	16 (1.5)	139 (8.8)	365 (26.7)
計	1103 (100.0)	1585 (100.0)	1368 (100.0)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:医療機関の多い都市の保健所における乳幼児健診の果たしている役割を知るために母子管理カードによって、健診時の母の訴えについて調査した。何らかの訴えのあった児の割合は乳児 63.4%、1才半児 75.4%、3才児 63.2%であった。訴えの内容は乳児では疾病・異常など身体に関することが最も多く、次いで栄養・食事などであり、1才半児では栄養・食事に関することが最も多く、3才児では行動・情緒の問題が最も多かった。訴えに相応した所見が認められたり、心配・不安に対して相談が必要であったりして、個人的な指導・指示が行われた訴えの割合は乳児 36.2%、1才半児 44.5%3才児 45.5%であった。